

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2017 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	- (事務局用)	マーケティングに基づいた、シティー・プロモーション やブランディングの推進	枚方市
アイデア名 (注1) (公開)	ワーク・ライフバランスの実現が出来る街・シェアリング・エコミーサービスによる「ライフデザイン サポートシステム」		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2017 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報

チーム名 (公開)	関西イクメン&ワーキングママ		
チーム属性 (公開)	<input checked="" type="radio"/> 1. 市民によるチーム	<input type="radio"/> 2. 学生によるチーム	<input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム
メンバー数 (公開)	5名		
代表者情報	氏名 (公開)	宮津 聡子	

(注意書き) ※ **必ず応募前にご一読ください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2017\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2017 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin\_padit\_cog2017@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。

3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)

5. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、や知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。

7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

## 2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの論拠、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

### （1）アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれが、何を、どこで、いつ、どのように、する公共サービス（活動）なのか、これらの要素を入れて内容そのものをわかりやすく示してください。1 ページ以内でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

#### 1) 20代～30代の女性が、子育て、仕事、自分の生きがいをいずれも諦める必要がない、自由で自分らしいライフ・デザインができる街だと、枚方市を高く評価して、生涯暮らし続けるためのソリューション

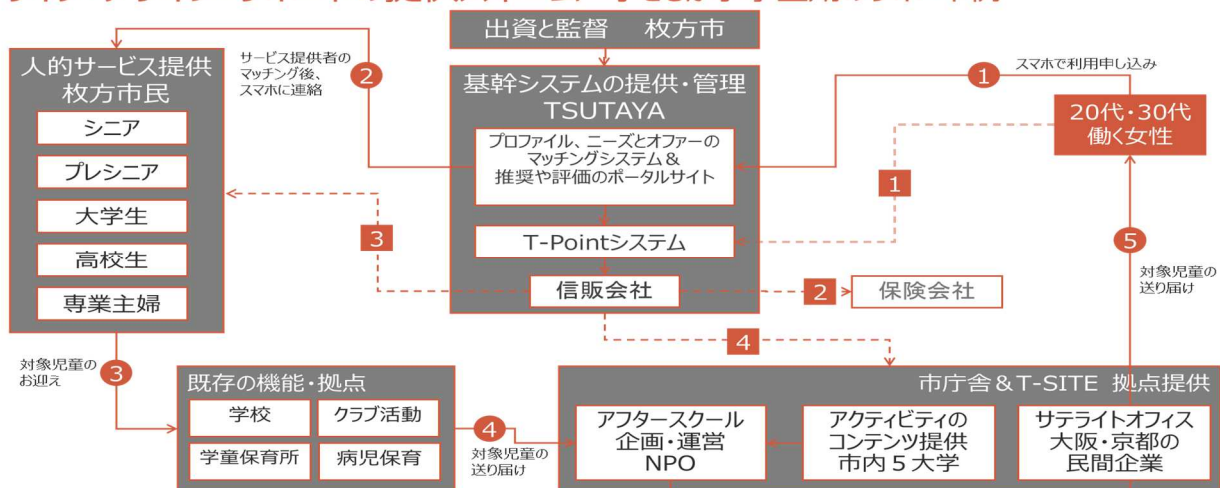
誰が：様々な機関が連携（枚方市と市民、教育機関、医療機関、研究機関及び民間企業とがチームを組む）

何を：20～30代女性がライフステージの変化で起きる困りごとを

どこで・いつ：枚方市内の、いつでも、どこでも、困っている時、即時に、

どのように：きめ細やかに、リーズナブルな価格で（困りごとを）解消する、シェアリング・エコミーサービスを提供  
それにより、効果測定指標「ワーク・ライフバランスを実現できていると感じる市民 25%以上」を目指す（vs 全国平均 15.2%内閣府・仕事と生活の調和に関する意識調査、平成 20 年）枚方市として、「子どもが希望する課外活動に参加させている」「休日に、リフレッシュする時間が持てる」「子どもがいても、学ぶ機会が持てる」市民の割合も測定・評価していく。

#### ライフ・デザイン・サポートの提供スキーム 子どもが小学生期のサポート例



● サービス提供の流れ

■ お金の流れ

グレイで示した部分が、サービス提供主体となる枚方市のステークスホルダー

基幹システムは公募し、外部委託する。例えば TSUTAYA さんに、担っていただく。

1：サービス利用者（主に 20 代～30 代の共働き世帯）が、どんなサービスが必要か登録し、

サービス提供者も、どのようなサービス提供（例：保育園の送り迎え、食事の作り置き、子どもの一時預かり、習い事の送迎、病児対応など）が可能かを登録（サービス利用者としても、提供者としても登録可能）

2：サービス利用者は、その希望を、アプリを通じて申請すると、サービス提供者と即時マッチングしてもらえる（保険には自動加入：一般社団法人シェアリングエコミー協会・損保ジャパン日本興亜株式会社の「オールインパッケージ（利用者保証型）」）

3：サービス提供・利用後は、相互評価をして、信頼性を担保（信頼性には、他にも、入会の際に、顔写真+証明書提示・“Prove Trust” <https://www.provetrust.com/>（SNS 信頼度をスコア化するサービスを利用）

4：常に必要なサービスは市の「ライフ・サポートステーション（市庁舎・T-SITE）」に集積

（大学、医療、飲食と連携し、アフタースクール（習い事、勉強）、子ども食堂、病児保育、サテライトオフィス、ライフサポート相談室など）街全体で住民同士が連携して支え合うシステム

## (2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアなのかの理由付け）について、それをサポートするデータ（統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの定性データ）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつ、2 ページ以内でご記入ください。データ類は出所を明らかにしてください。

### ◆20代～30代の働く女性をターゲットとした理由

自治体として存続するために、税収拡大・維持は重要な問題。納税できる市民を維持・拡大するには、納税できる期間が長い20代・30代の働く女性を特に重視。20代・30代女性には、3つの有望性がある。

- ① **労働人口の伸び代がある**→現在、47%の女性が第一子出産を機に退職している（国立社会保障・人口問題研究所「大5回出生動向基本調査」）共働き世帯は増加傾向（2015年全国1114万世帯（独立行政法人労働政策研究・研修機構））  
→第一子出産後も、女性が仕事を辞めなければ、税収は維持できる
- ② **新情報への反応と選択が速い**→枚方市の2013年女性人口増は、市内大学での女子ウケする学部新設の影響と推察できる。→就職後も、枚方市に住み続けるメリットがあれば、引越さず、納税してもらえる
- ③ **産むかどうかは、女性の気持ち次第**→人口増に直結する出産への最終的な意思決定者は子供を産める20代・30代の女性→子どもを産みやすい環境を整えることで、2人目、3人目の出産も期待でき、人口増につながる。

### ◆20代～30代女性の「困りごと」を徹底的に排除し、枚方市から引越す理由を無くす

20代・30代は多くのライフステージの転換期に直面する。また、ライフステージの転換点は、引越しゃ、住宅購入を考えるきっかけになる。住宅購入エリアの決定の主導権について、共働き世帯は、妻が夫よりも大きい（野村不動産）

#### ライフステージの転換点は、引越しゃや住宅購入を考えるきっかけ

- ・ 大学進学
- ・ 就職
- ・ 結婚
- ・ 出産
- ・ 子供の教育
- ・ 自宅購入
- ・ 転勤
- ・ 退職
- ・ 介護



働く20代・30代女性に、ライフステージ転換点で枚方市で住宅を購入したいと考えてもらうための、枚方市からの価値提案が必要

20代・30代の主な転居理由：結婚・子育て環境上の理由・親と近居・生活環境上の理由・通学通勤の便（国立社会保障・人口問題研究所「第7回・人口移動調査」2011年）で中でも、20代後半から、親と近居、子育て環境上の理由・生活環境上の理由が伸びる。→20代・30代の子育て共働き世帯の「困りごと」を取り除き、ニーズに応えることで、枚方市から引越す理由を無くす。

### ◆20代・30代のライフステージにおける困りごと（ワーキングママ 20人定性調査とオープンデータから）

**妊娠・出産**：結婚して家事への関与が急上昇、妊娠するとWLBの難易度は増す

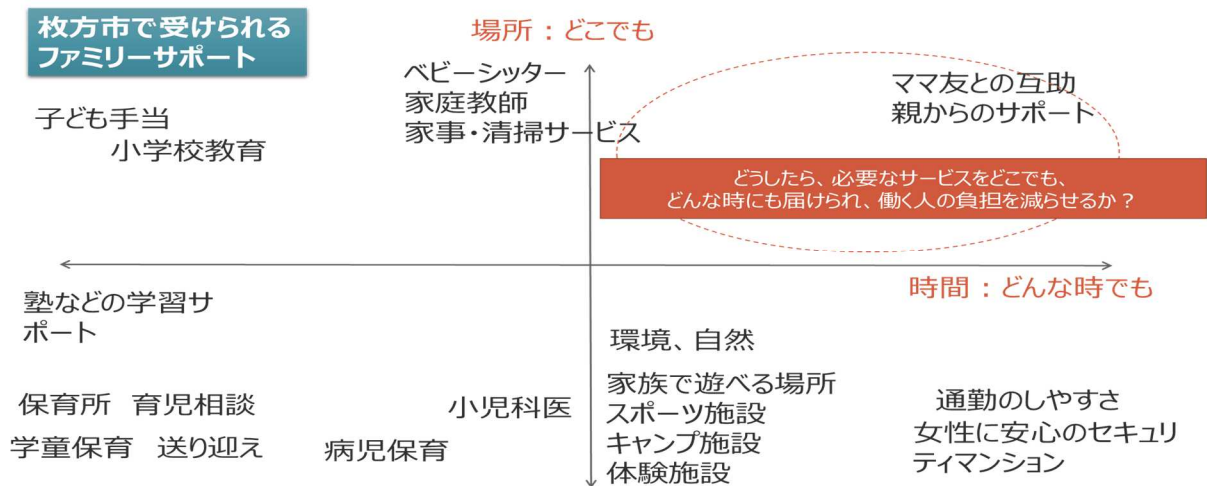
**第一子出産後**：第一子出産後、育児休業を取得したものの、サポートがないと子育てできない。ワーキングマザーは、実家のサポートを得るために68%が親と近居している（三菱UFJリサーチ・ワーキングマザーと専業主婦における実家との距離2015）

**第一子（1-3才期）**：育休復帰後、自分のことはそっちのけで、仕事と育児、家事に追われる。急な子どもの病気などで、保育園からの即お迎え要請に怯えながら過ごす。→出産後の退職理由は、子どもの病気などで度々休まざるを得なくて22.9%、自分の体力がもたなさそうだった/もたなかった45.7%（三菱UFJリサーチ&コンサルティング「両立支援」に係る諸問題に関する総合的な調査研究平成20年）

**第一子（3-6才期・第二子妊娠出産）**：第一子を抱えながら、第二子妊娠すると体調が安定せず、更に育児・仕事が負担となる。第二子が第一子と同じ保育園に入れないと職場復帰が困難で不安を募らせる日々。→退職理由は、妊娠・出産にともなう体調不良18.1%（三菱UFJリサーチ&コンサルティング「両立支援」に係る諸問題に関する総合的な調査研究平成20年）夫の家事・育児時間が長いほど、第二子出生割合が高い（休日・家事育児なし16.3%vs8時間以上46.2%）（厚生労働省第6回21世紀成年人者縦断調査2008年）

**第一子・小学生**：第一子小学校入学、第二子保育園児で、双方の行事に仕事をやりくりして参加。PTAの参加も負担。第一子が習い事やスポーツクラブに興味を示しても、同伴する時間を確保するのが難しく、断念。小学校に入った途端に、学童保育が17時までとなり、不安。最悪のケースでは、母がキャリアを諦め、退職という末路も。→ライフステージ毎に、困りごとは変化していく。よって、それらを丁寧に取り除く、“継続的かつ、きめ細やかな”対応があれば、働く女性は、子育てをしながら、安心して暮らすことが出来る。

◆現在の枚方市のファミリーサポート



・現在は、働く女性が一番求めている、「即地性・即時性サポート」はなく、自助努力に委ねられている

・ライフステージが変わるときに、サポートが途切れる（特に、子どもが小学校1年生に進学する時）

それ故に現在は…

- ① 実家のサポートを得るために近隣都市に転居/仕事に集中するため、職場の近くに転居する（大阪・京都）
- ② 仕事を削って家庭に縛られる（キャリアアップを中断・断念し、ストレスをためる）

それを解決するために…

・20代・30代女性が、ライフイベントが変化しても、継続して、仕事、妊娠・出産、子育て、家族関係、自分磨きや自分癒しを実現できるよう、日々の困りごとを全方位で支援する施策を、「ライフ・デザイン・サポート」としてシステム化し、提供していくことが必要。

・「ライフデザインサポートシステム」があれば、実家のサポートがなくても枚方市から引っ越す必要はない。


・近隣市からも、自らのライフ・デザイン、ワーク・ライフバランス充実のために、枚方市に転居する理由がある。

共働き子育てしやすい街ランキング 2017 総合編（日経 DUAL）において、関西でランクインしているのは神戸市（16位）のみなので、今、施策をすることで、京都・大阪に勤務している共働き世帯が近隣都市からの転入してくることも、見込める。


### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大きな規模とその現実的な調達方法（制約がある場合にはその解決策を含む）、アイデアの**実現にいたるプロセスとマイルストーン**等、アイデア実現までの大きな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

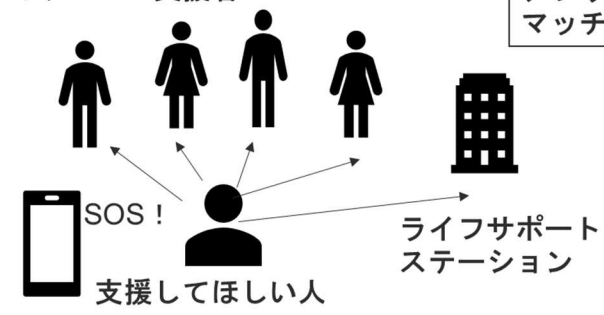
**昔ながらのご近所さん互助システムの現代バージョンで、ライフデザインをサポート**



ヒト：  
市民が  
会員登録



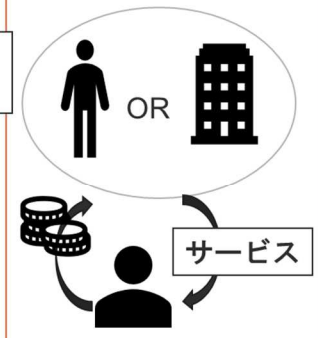
登録しているご近所さん、友達などのサービス支援者



アプリで  
マッチング

ライフサポート  
ステーション

支援してほしい人



サービス

基幹システムは外部委託しながらも、行政が管理監督し、ステーションは行政が提供

**主体：**枚方市のシティー・プロモーション課が TSUTAYA などの外部の運営会社に委託  
**ライフ・サポートステーション内のアフタスクール・こども食堂・サテライトオフィス利用者も公募し委託**

**資源：**ヒト→数万人規模のサービス提供者・利用者  
 （サービス提供・利用の利便性と、顔が見えやすいサービスにするために、枚方市を、小学校/中学校区に区切って集める）  
 モノ→駅前再開発のビルの一部を、「ライフ・サポートステーション」として、枚方市が提供  
**外部委託業者と共にマッチングアプリを開発**  
 カネ→クラウドファンディングで 5000 万円を目標に収集する

「ふるさと納税・クラウドファンディング」を使用予定→  
 （例：東京都文京区・こども宅食：  
 1000 世帯のこどもがいる貧困層世帯に、食品を届けるサービス  
 2017 年 7 月～現在で、約 5600 万円の収集実績）

**<ライフ・サポートシステム経費>**

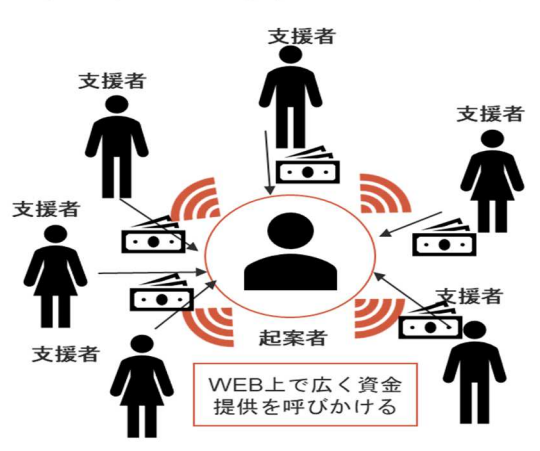
アプリ開発・HP 運用費	1500 万円
広報費	1000 万円
ライフ・サポートステーション設備費	1500 万円
保険料	500 万円
諸経費	500 万円

**<サービス利用費>**

一時間ごと：（一般サービス提供者からのサービス）500 円  
 有資格者（保育士・調理師・看護師からのサービス）600 円  
 病後児などの特別ケアが必要なケース 700 円 子ども一人追加につき +200 円  
 年会費（サービス利用側） 1.5 万円/世帯（市民税非課税世帯は、無料）  
 アフタスクール・こども食堂などのライフ・サポートステーション利用は、コンテンツに応じて、別料金

**決済方法：**直接、サービス提供者に支払う、もしくは、アプリでサービス成立時に、カード決済する

枚方市・ふるさと納税クラウドファンディング



WEB上で広く資金提供を呼びかける

### <サービス利用・サービス提供の対象者>

サービス利用者：子どもの送り迎えなどの子どもへのサービスは、子ども 1 才以上から小学校卒業まで  
その他の家事サービスなどは、枚方市民なら誰でも利用可能

サービス提供者：18 歳以上の全枚方市民

### <初年度想定利用者数>

サービス利用者・サービス提供者：各 15000 世帯

(サービス利用者：枚方市に 6 才未満の子どもがいる世帯 30788 世帯(平成 22 年度国勢調査)と枚方市学童保育利用者 3906 人(枚方市教育委員会・H28 年) サービス提供者：枚方市世帯 約 17 万 9 0 0 0 世帯(枚方市 HP・2017 年 11 月末)より推定)

### <サービスの安全性・信頼性>

#### 1：信頼性の確保 →サービス提供者・利用者の評価システム・登録時の工夫

→“Prove Trust” <https://www.provetrust.com/>

シェアリングエコノミー用に、SNS でサービス提供者の信頼度をスコア化するサービスを利用

→アプリ上で、サービス提供者・サービス利用者の相互評価を公開する(例：Uber, Airbnb)

→登録には、本人確認のための顔写真付きの証明書を提出してもらう

#### 2：安全性への懸念 →保険加入

一般社団法人シェアリングエコノミー協会・損害保険ジャパン日本興亜株式会社

「オールインパッケージ(利用者補償型)」

施設賠償責任保険 5000 万円・受託者賠償責任保険 5000 万円・生産物賠償責任保険 1000 万円  
(対象年齢 1 才以上)

### ◆実現プロセス

#### 1：提携会社の選定

ライフ・サポートシステム説明会の実施

→システムベンダー、保険会社、アフタースクール、病児保育室、子ども食堂、サテライトオフィス、信託会社

→シティー・プロモーション課が中心となり、プラン概要の審査をし、選定する

#### 2：市での広報活動・専用ホームページの立ち上げ

#### 3：クラウドファンディングの実施(ふるさと納税クラウドファンディング)

#### 4：サービス提供アプリの開発(システムベンダー)

#### 5：サービス提供者・サービス利用者のテスト募集・登録

→人口が密集している小学校の 2 校区くらいを選びだし、テスト募集

→登録には、運転免許証などの証明書を添付・顔写真での本人確認

#### 6：サービス提供者・サービス利用者への説明会・研修実施(枚方市とシステムベンダー)

#### 7：シェアリングエコノミー保険一括加入

#### 8：ライフ・サポートシステムの運用テスト

→サービス提供者・利用者は、アプリ上で相互評価し、システムの信頼性を高める

#### 9：運用テストのパフォーマンス評価および修正

→利用者の利便性評価(1.5 時間以内の即時性・即地性のマッチング率 80%以上を目指す)

#### 10：全市内で、運用開始